

日本の歴史に



こんにちは！ハナエモンこと花本隆資です。

先日、広島県尾道市内の西藤小学校で、6年生の子供達に歴史の授業をさせて頂きました。今回で3回目となります。母校ではなく近隣の西藤小学校へ行って来ました。今まで同様、1時間目は会社紹介と鎧・日本刀についてお話しさせて頂きました。

「鎧と一言で言っても、沢山の形、色、材質の違いがあるんだよ。」

「刀も長さ、形もそれぞれ違うんだよ。」

「この兜は何をモチーフにして作られたか分かりますか？」

と質問をするとみんな手を挙げて発言してくれて本当に嬉しかったです。

鎧・日本刀の説明を終えると、早速、実際に鎧・兜・日本刀に触れてもらいました。刀が入った持を持実際に両手で持たせてあげると、

「重っ！こんなのが振るの？」

と、大はしゃぎで何度も振っている子もいました。

レプリカの兜を被るコーナーでは大行列になり、生徒たちと一緒に先生にも被って頂きました。

「すごいね！頭が重いね！」と、大興奮でした。その中でも、先生が一番盛り上がっていたのは？

何の為にこの仕事をしているのだろうか？そんな事を考えた約10年前。いつか子供達に日本の歴史に興味を持つてもう、好きになってもらう“きっかけ”になる歴史の授業を出来たら嬉しいなと思っていました。当日、生徒達が目をキラキラさせて、鎧を見たり、触ったりしてくれている姿を見て、本当に嬉しかったです。今後もいろんな小学校で授業をし、日本の素晴らしい文化に触れるきっかけになれたらしいなと思います。



この前は歴史の授業をしてくれたて、ありがとうございました。
私は、刀や鎧、兜などを見たり、さめたりしてみて、それが結構かく模様や重さ、材質がいい、とてもびっくりしました。
また、時代が進むにつれて、鎧や兜が変化してきたという話を聞いて、昔も今も、だんだんと改善されていく様子というのは変わっていてなくて、時代は繰り返すという言葉がひいただと思いました。
私は、今回の授業を受けて、歴史に関する本を読んでみたり、鎧などがあるところにも行って見たりしたいと思いました。
改めて、ありがとうございました。

TAC様より



この度は、素敵なプレゼントを下さり誠にありがとうございます。菖蒲の心落ち着く良い香りで、これから大切に使わせていただきたいと思います。以前貴社にて購入した軍刀と共に撮影したプレゼントの写真を添付しております。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。
ありがとうございます。軍服姿、とてもかっこいいですね～素敵です！
また弊社で購入して頂いた軍刀と一緒に撮って送って下さり嬉しいです！今後ともどうぞよろしくお願いします。

今号の大和魂はいかがでしたか？皆様のご意見・ご感想どしお寄せください。お待ちしております。

件名:ニュースレター返信
と入力して送信して下さい。



最新情報は
こちらから

ホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社 大名

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

届けますっ！大和魂

2024年6月
Vol.60

経営理念

有限会社大名は「届けますっ！大和魂」を合言葉に
日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の
趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

こんにちは、中堀明美です。6月になりそろそろ梅雨が近付いてきますね。

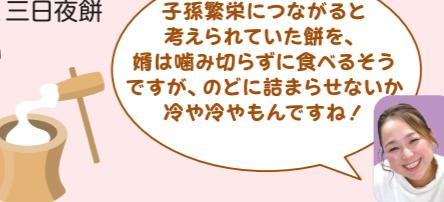
雨が続くと少し憂鬱と感じる方も多いと思いますが、じとじと降る雨音は、なんだか癒されるので好きです(^^)
6月と言えばJune bride (ジューンブライド) で結婚式が開催されることが多いですね。私の従妹も結婚式を挙げる予定です!!
ジューンブライドとは、ヨーロッパで「6月に結婚する花嫁は幸せになれる」とされる言い伝えのこと。

意味や由来については諸説ありますが、結婚や出産を司る女神「Juno (ジュノ)」が守護する月が6月 (June) であることから言われています。
では、日本の結婚はどんな歴史があるのでしょうか？

「婿取り」奈良～平安時代

男性が女性のもとへ通う「妻問婚」という通い婚で、平安時代まで続いていました。元々は農民の間で広まり、それがやがて貴族など身分の高い人々の間でも流行するようになりました。一夜を共にした後、後朝の歌^①を贈り、さらに三日間続けて女性のところに通います。三日通うと「これからはあなたを棄てません」という誓いとなります。三日目の朝に花嫁の両親と一族、三日夜餅という祝餅で祝宴をし、愛を誓い合っていたそうです。

*① 男女が契りを交わした翌朝、男が女に送る手紙のこと



「嫁取り」鎌倉時代

「嫁入り」、「嫁取り」という現代に近い形に変化しています。男性が強い権力を持つようになり、妻を3人まで持つことをよしとされるようになりました。親戚や知人を招き、占いや祈祷などを行う祝宴を開くようになりました。

現代では考えられませんが子孫を沢山残すために一夫多妻制だったのかもしれませんね！

「家と家の結びつき」室町～安土桃山時代

武家を中心に政略結婚が行われるようになってきました。花嫁が輿に乗り、嫁入り道具を持って男性の家に向かい、花婿と花嫁、侍女だけの部屋で※「式三献」が行われます。まず花嫁が酒に口をつけ次に花婿が飲み干し、これを3回繰り返します。いわゆる「三三九度」です。このしきたりは現在の結婚式でも広く行われています。この後3日間、花嫁は白装束で過ごし、3日目に「色直し」として初めて色柄の入った着物に着替えることができます。そしてようやく花婿の家の家族や親族とも対面し、その家の嫁として迎え入れられたのでした。

※「式三献」とは礼式で、一献は一つ目の盃に三度酒が注がれ、二献は二つ目の盃に三度、三献は三つ目の盃に三度酒が注がれるので、三献で酒は九度がされることになり、三々九度の盃事として現在でも婚礼に残っています。



花嫁が酒に口をつけ、次に花婿が飲み干し、これを3回繰り返す「三三九度」です。これは現在の神前挙式でも行われていますね！そして、洋装の披露宴で行われる「お色直し」の由来はここにあったのですね。



「見合いをして嫁入り」江戸時代

お相手を親が決めることが当たり前でした。仲人が見合いの席を設けて両家を引き合わせ、結婚が決まったところで結納の儀式が行われ、式は夜に行われる事が主流でした。本当に好きな人と結婚する「独立婚」は、身分の低い家でしか許されなかつたそうです。



「大事な娘を そうしたやすくは嫁がせない」という想いから 式が夜に行われていたとか… いつの時代も子を簡単には手放さない想いは一緒にありますね！！

時代によって式の挙げ方もですが、結婚に対しての想いが全然違う事に驚きました！

多様性の現代では同性婚も認められてもおり、好きな人同士で自由に結婚できる良い時代になりましたね。私は結婚式を挙げていないので、50年目の金婚式でハワイに行って式を挙げたいです(笑)

こんにちは、島谷貴子です。

今号では「目の下頬」について語らせていただきます。

面具の流れ

平安時代
半首

平安～鎌倉時代
半頬

南北朝時代、江戸
総面

いつから?

室町時代から戦国時代に最も多く流行しました。

「目の下頬」は目の下より頬までを防御する面具で、鼻の付いた頬当のことです。

- ・額当てとしても利用できるように、鼻の掛け外しが可能①
- ・面具が顔によく密着できるように、兜の緒を掛けることが可能(折釘、緒便り)②
- ・面具が頭からはずれないように、紐がついている(掛け緒)③
- ・呼吸や发声がしやすいように、口は大きく開いている
- ・汗を面具にためこまないように、汗流しの穴がある(汗流穴)④

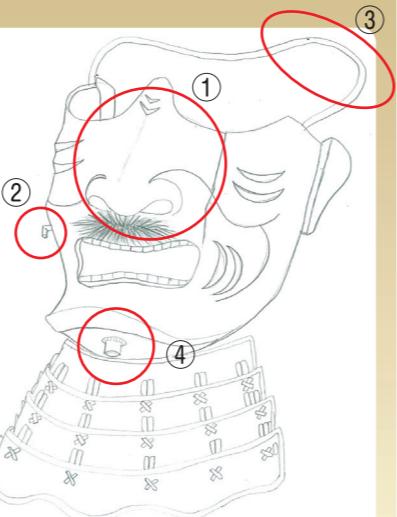
兜の下から目だけがのぞいている為、着用者の本当の顔が分かりづらかった。その為、戦場で敵を威嚇するための面具として表情豊かなものが流行していきました。

表情豊かな目の下頬とは?

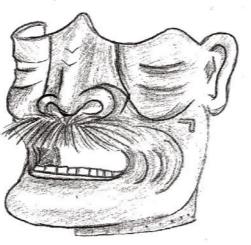
表情を豊かにするため、髭や歯などがつけられるようになり、口の隙間や顔の皺を作る

など、高い打ち出し技術も求められるようになっていきました。
髭の種類は熊毛、馬の糟毛、ヤクの尾の毛、鹿の冬毛、猪の毛を鼻の下、下唇下へ植え付けられていました。歯は、鉄または煉瓦で打ち出したり、金や銅のものを付けていました。口の隙間は表情に合わせて大きさ、形を変えて作られていました。
最も流行していたのは、皺を打ち出した「怒りの形相」を表した「烈勢頬」、「威勢がよく、たけだけいい形相」を表した「隆武頬」です。

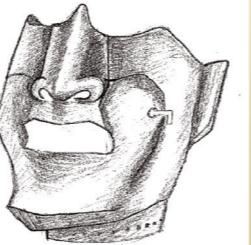
語ります 大和魂



◆ 烈勢頬 ◆



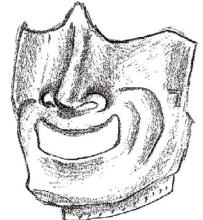
◆ 隆武頬 ◆



他にも

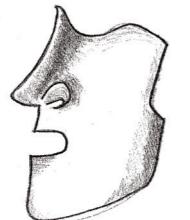
戦場での笑みは不気味な

◆ 笑顎 ◆



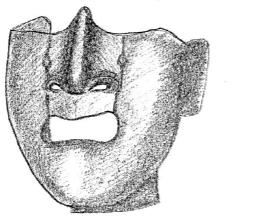
優しく見え、相手をはかりかねる

◆ 美女頬 ◆



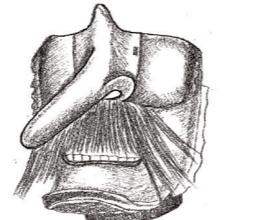
やわらかい表情の

◆ 御家頬 ◆



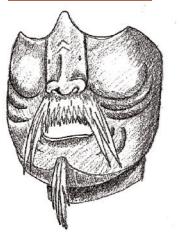
鼻の長い天狗のような

◆ 天狗頬 ◆



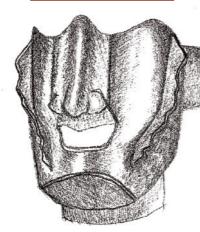
皺だらけの

◆ 翁頬 ◆



頬の細い

◆ 嫫頬 ◆



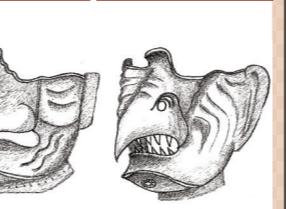
頬の形が狐のような

◆ 狐頬 ◆



鳥天狗の相を象る

◆ 鳥頬 ◆



◆ 迦楼羅頬 ◆

色々な種類の面具があり、とても個性的だと思いました。着用者の趣向もあり、全てのパート(取り外し可能な鼻や、髪、汗流穴等)をこだわって作らせていた事が分かりました。色々ある中で、私は「笑顎」で鼻の形は猪の目にし、髪は長めで汗流しの穴は大きめの面にし、戦場に立ちたいと思いました。皆様はいかがでしょうか?

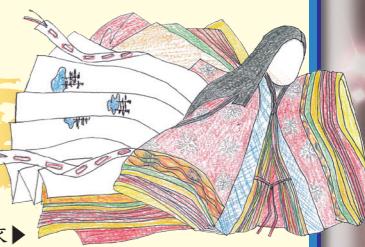


今年の大河ドラマ「光る君へ」で紫式部への注目が集まっていますので、今年は三大美女にターケイムスリップしてみましょう。今号はこの方にターケイムスリップしていきます。

平安時代前期の一流女流歌人

小野小町

おののこまち (生没年不詳) 十二单衣▶



謎だらけ!?

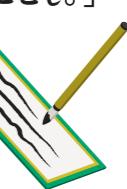
日本三大美女、六歌仙、三十六歌仙にも選ばれて才色兼備の象徴の様な小野小町ですが実は生没年不詳で父母兄妹も更には生誕地も正確には分かっていないそうです。ただ、小野家が陸奥国(現在の福島県、宮城県、岩手県、青森県と秋田県の一部)に縁があることもあり、秋田県湯沢市小野が有力地とされていますが、正確には分からぬそうです。

では何故、小野小町が平安時代前期に存在していたと云われているのかというと、在原業平(西暦825-880年)など、平安前期の歌人達と歌を送り合っていた資料が残っているからだそうです。仁明天皇(810-850)の更衣(天皇の着替えを手伝う女官)をしていた小野吉子と同一人物ではないかとも云われています。



平安時代の貴族階級の女性は実名を公にしない慣習があったそうで、小町は名前ではなく、官職にちなんだ通称です。紫式部の式部も同じく官職で、父の官職から付けられた通称になります。藤原家の式部から藤式部から、紫式部へと変化したそうです。清少納言も同じく、父の官職である小納言から清原家の小納言から清少納言と呼ばれています。

冒頭の評価が同じ女性の和歌三神にちなんで付けたとすれば、外見に関しては触れていないのかもしれません…。いえ、いえ、きっと才色兼備にちなんで付けたはず。



本当は絶世の美女ではない!?

詳しい事がほとんど分かっていませんが美女の代表とされている理由は、平安時代の歌集:古今和歌集の冒頭に書いている六歌仙の評価からだと云われています。小野小町については、「小野の小町が歌は、古の衣通姫の流なり。然れども、艶にして氣力無し。病める婦の花粉を着けたるがごとし。」と書かれています。この「衣通姫」の表現が美女と呼ばれる理由になります。和歌三神と呼ばれるほど和歌に優れていたことはもちろん、衣を貫いて外へ輝きでるほど美しかったことから呼ばれていたそうです。

百人一首の服装も違うかも!?

百人一首で小町は平安時代の女性貴族が身に付けていた「十二单衣」で描かれています。平安時代の前の奈良時代では天平文化が花開いていました。天平文化では女性は白粉を塗らず、絵の様に「天女の様な格好」をしていたそうです。もしかすると平安前期に活躍した小町は天平文化の格好だったかもしれませんね。



ちなみに平安時代中期頃から白粉を顔に塗るようになりました。地毛の眉毛を全て抜き、眉毛の位置より少し高めに眉を描き始めたそうです。ただ、白粉がすぐに乾燥しやすい物だったので、笑うとポロポロとハゲ落ちたそうです。だから女性は出来るだけ笑わず、真顔でいる様に心掛けたそうです。大河ドラマでもあります、扇を手に持って「オホホホホ」と笑顔を隠すのはその意味もあるかもしれませんね。